

佐渡米通信

こめる

2024年 9 月号

発行日:2024年9月

発行：佐渡農業協同組合 担当：総務部企画課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snw.ocn.ne.jp

後期栄養確保で 高温による等級低下を防ぐ!

コシヒカリの出穂期を迎えようとする中、後期栄養確保指導会が行われました。これまでは穂肥を施用しますが、猛暑が予想される場合には出穂期の3日前までに更に追加で施用するように指導が行われました。JA佐渡では昨年度から本格的に活用を呼びかけた葉緑素計による高温登熟対策の有効性も改めて説明しました。追加施肥の方策については米の食味に影響を与えない技術として確立されており、診断には葉緑素計が重要となってくるため引き続き活用の推進に努めて参ります。



JA佐渡職員の説明に熱心に耳を傾ける生産者ら

佐渡の米農家さんにインタビュー

金井地区の仲川芳信さんにインタビューさせて頂きました。仲川さんは「朱鷺と暮らす郷」認証米コシヒカリ、新之助、夢ごこち、飼料米を合わせて10ha作られています。これまでに八代目儀兵衛お米番付2016年、2021年に入賞されるなど数々の受賞歴を持ち、今年で19年目のお米作りになるそうです。

仲川さんは佐渡米ブランドを確たるものにする信念をもとに美味しいと言ってもらえるお米づくりに尽力されています。ASIAGAP 団体認証の取得の話があった際は代表を任され、取得したことは品質管理をするうえで意義のあることであったと語られていました。また土作りを独自で考えられており、佐渡市で養殖が盛んな牡蠣の殻を砕いて春の耕起の際に撒いているそうです。仲川さんが田んぼで生育状況の説明をしてくれた際に「寝苦しい夜は稲も同じで、肩で息をしているような状況なんだよ」とまるで稲の気持ちを代弁しているかのように、夜温が下がらないと呼吸量が増大し栄養を余計に消費してしまうことについて教えてくれました。

JA佐渡では、高温による等級低下を防ぐための指導や高温下の作業の省力化の提案に努め、品質・収量の維持に努めて参ります。



晴れていれば金北山が見えるこの景色がキレイだよと教えてくれる仲川さん



八代目儀兵衛お米番付2016年入賞されたときの賞状



金井地区

生育状態を見極めた穂肥施用

出穂期前の適切な穂肥
で充実した粳確保!



活用推進のために作製した葉緑素計の拡大模型



稲の出穂・開花

ふゆみずたんぼ
秋耕転
稲刈り
穂肥
中干し
水管理
田植え
苗づくり
春耕転
温湯消毒



facebook



instagram



JASADOTANBO